

介護老人保健施設

# ほのぼの苑

だより

平成15年7月28日

創刊号

発行所

〒018-1401

南秋田郡昭和町大久保字街道下92-1

医療法人 正和会

介護老人保健施設

ほのぼの苑

TEL (018) 877-7115

FAX (018) 877-7481

ホームページ

<http://www.scivakai-akita-no1.or.jp>



創刊にあたって

―ご挨拶―

理事長 小玉 敏央



地域の皆様のご協力により「ほのほの苑」が開設されてから八年目の夏を迎えようとしております。この度、遅ればせながら「ほのほの苑だより」を創刊することになりました。この冊子の主目的は、利用者並びに御家族の皆様への情報提供にあります。ほのほの苑の日課や行事、そして入所・通所している方たちや職員の様子、さらには皆様からの要望に応じた記事を掲載していく予定です。ところで私たちは、この介護老人保健施設を少しでもレベルアップするために、種々の取り組みを行っておりますが、「施設運営適正化委員会」の設置もその一環であります。御家族や行政関係者等の方たちに委員就任をお願いし、ボランティアとして月に一度の開催にご協力をいただいております。現在、この会議の

場で提案される建設的なご意見やご要望などは、まさに私たちの貴重な財産となっております。委員の皆様には紙面を借りて厚く感謝申し上げます。

「ほのほの苑だより」もまだまだ拙劣な出来映えではありますが、将来は第二の「施設適正化委員会」を指し、職員一同力を合わせてさらに一段上の施設作りをしたいと考えております。皆様のご協力をお願い致します。



創刊号発刊に際して

施設長 齋藤 晴樹



平成十三年二月に秋田大学整形外科より赴任して、並木前施設長と一緒にほのほの苑で勤務させて頂くようになって、もう二年が過ぎました。当時、入所者のご家族との懇親や連絡として「ほのほの苑だより」の創刊号が、表紙を含めて数ページ出来ていましたが、まだ未完成でした。そこで、遅ればせながら第一号を刊行したく編集委員会を今春に設けて、今回の発行に到りました。まったく素人の職員が知恵を絞っての編集で、主に各職場の紹介が多くなりましたが、次回からは、ほのほの苑の季節毎のご紹介や、ご家族の投稿も募集致したく、年三、四回の発行を予定しておりますので、よろしくご協力お願い申し上げます。

発刊にむけて

事務長 大友 秀美

施設建設と同時に広場に植栽された十数本のメタセコイアは、しっかりと大地に根をおろし枝は青緑の葉で覆われ堂々としている。当施設も開設以来、八年目を迎え少しずつではあるが確実に根をおろしている。

メタセコイアは落葉高木の巨木である。一見、堅い樹質に見えるが実は、柔らかいのである。当苑もこのように、ハード面とソフト面の調和を強調したいと考えている。落葉する冬はジャンボツリーに変身し、見る人の心を和ませる。これから数年後あるいは十数年後、メタセコイアのようには地にしっかりと根をおろし、人の心を和ませる施設にできればと考えている。また、その根は強く常に前向きに進みたいと考える。セコイアのようには。



# 年間行事1

1月～6月



1月 新年を祝う会

## 主な年間行事

- 1月新年を祝う会
- 2月節分
- 3月ひな祭り
- 6月運動会
- 7月正和会健康祭り
- 9月交流会 (大久保小学校)
- 12月クリスマス会



2月 節分



3月 ひな祭り



6月 運動会



# 年間行事2

7月～12月



健康相談



出店

7月 正和会健康祭り



羊灯



9月 交流会 (大久保小学校)



12月 クリスマス会

# 入所者作品展



白鳥 (ペーパークラフト)  
佐藤ハナエさん



月見草 百日草  
伊藤蝶子さん



## 短歌

伊藤 蝶子さん

雨がふっても 雪がふっても

自の心がはれるのが 一番

ありがたうのもと しあわせあり

桜の花 雨風にまけないで 今年も想い出のこし

春燈に らきり絵糊の 爪重み  
 神の雨 苗植え光澤 大空へ  
 洗ひ綱 刺しみ自愛の カルシエウム  
 女引く にごり豆腐 四月馬鹿



菅原 鉄治さん

かれらいし 早く食べたい 待っている  
 春来たり かけっこしている 兎たら  
 春休み 子供群がり 夢気分  
 馬場目川 川の流れば はーやーい



石井タミエさん

小野バレエ団のみなさん



たくさんの善意を  
ありがとうございます。

〈ボランティア活動に  
参加していただいた方々〉  
敬称略

- ・鯉川小学校 鼓笛隊
- ・佐々木芳男
- ・千秋高踊会
- ・永扇会
- ・コール昭和
- ・コール飯田川
- ・勝田久子
- ・中央保育園
- ・秋田万歳
- ・平和アンサンブル
- ・和洋高校
- ・ささら太鼓
- ・北条碩子
- ・島山キミ
- ・創作バレエ研究所
- ・NHK学園高等学校専攻科
- ・県立能代養護学校
- ・秋田正派会
- ・シオンの丘秋田キリスト教会
- ・ビハーラ秋田
- ・加藤キヌ
- ・良扇会
- ・浜田キヨ
- ・菅原金秋
- ・島山キミ
- ・小野バレエ団
- ・大久保小学校

ボランティアをして下さる方募集しています

- ・趣味・創作活動をして下さる方
- ・唄・踊り(演芸)のできる方
- ・レク活動のお手伝い
- ・入所者の話し相手
- ・行事のお手伝い
- ・身の回りのお世話をして下さい



職員から一言



看護科長 石川 秀子

月日の経つのも早いもので、ほのほの苑が開設して八年目を迎えます。《月日が短いと感じるのは、その月日をいかに満ち足りて過ごしていったか》の指標になると言います。

アツと言う間の八年。道理から言えば、それは充実感を意味する以外の何物でも無い筈ですが、私たち看護師にとっては、正直なところ、充実感を充実感として実感できない程忙しく、常に何かに急かされる感で過ごして来たように思います。

病院では、エキスパートとして活躍してきた看護師も、老健施設での経験は皆無に等しいような素人集団での業務がスタート。試行錯誤の連続と言えは聞こえは良いが、看護師にとつてのそれは、入所されている方々の命に直接影響するという事。そんなプレッシャーを感じながら、ほのほの苑の広くて果てしなく長い

廊下を日々駆けずり廻って、我が麗しい十二人の乙女たちも、自信と実力と筋肉を身に付けたと自負しております。

これからも安心して過ごせるよう、そして家族の皆様にも信頼されるように、スタッフと共にさらに努力していきたいと思っております。



デイケア科長 佐藤とき子

私が、ほのほの苑「デイケア科」で勤務して1年がたちました。看護一筋に、生命誕生から始まり、人生の最終章を迎えたターミナルケアの人々まで、たくさんの方とかかわり

学ばせてもらいました。その都度、ご家族の大変さも知ることができました。しかし、デイケア勤務にて、在宅でのご家族の大変さが、さらに強く、身にしみて感じました。私自身初めてのため、利用者の名前と顔、地名、自宅、その他覚えるに、デイスタッフのみんなに助けられながら、やってこれたと思っております。さまざまな人生をクリアし、いま、これで終わりではなく「まだまだ」「これから」と、第3の人生をエンジョイしていただきたいと、利用者の健康状態の維持・改善を目的としたリハビリ、レクリエーション介護負担の軽減などを目的としたデイケア……。喜んで利用してくれるみんなの笑顔を見たとき、最大の喜びと感じ、なお一層努力していきたいと思えます。



リハビリテーション科長 松永 広枝

発行によせて

私は信州に生まれ信州に育ち、縁あって秋田の地に参りましたが、秋田は季節の変化に富み、その季節ごとに美しさがある土地だと感じています。この土地で過ごされた利用者の方々は俳句や詩吟・民謡など言葉に関する趣味を楽しまれていた方が多いのに驚かされました。彩り豊かで季節の変化に富む環境が感性を豊かにしてくれるのでしょうか。普段は趣味を楽しむ場が少ない入所生活ですが、ほのほの苑だよりの発刊が皆様の情報交換の場となり、趣味活動の発表の場として役立てばすばらしいことです。みなさまの声がほのほの苑だよりから聞こえてくるのを楽しみにしております。





「SS4って何だろう?!」

管理栄養士 中村 数

私がほのほの苑に入職してそして「SS4 (サービステーション4) の主」となって四年を迎えるが、果たして「SS4」がどういう場所です。私が知っている人か知っている人はどれだけいるだろうか? 職員の方達からは「何言ってるの?」と言われて、あれぞだが、入所者やその家族の方にはあまり知られていないようである。以前こんな事があった。ある入所者に「ここ (SS4) は「関所」みたいなもんだべ?」と言われ、私は「じゃあ、通行手形さるね」ととつさに言ってしまった。そしてある家族からは「ここで何か書類書くのですか?」「〇〇さんの部屋はどこでしょう?」と私を受付嬢 (この響きは私自身嬉しいが...) と勘違いされた。そのたび私は「ここに栄養士がいるとは誰も思わないか...」と落ち込んだりしていたが、ふと考えた時、このSS4は様々な光景が見える



「スタッフと共に」

介護チーフ 鈴木 聖子

「絶景の場所」である事に私は気付いたのである。リハビリに行く前に私に挨拶してくれる人、トイレの方向を間違ってウロウロしている通所者、食堂で皮細工や手工芸をして作った作品を私に見せてくれる人、食堂を見渡すとその日の入所者の調子もわかり、私は「SS4はいろんな体験ができるいい場所だな」と思うようになった。関所と言われても受付と間違えられても栄養士とわからなくてもいい。この場所が私には最高のオアシスであり最高の場所なのだ。

これからまた様々な光景をSS4で見ることが出来る事を私はワクワクしながら待っている。

「SS4って何だろう?」人それぞれ感じ方は違うが「ほのほの苑の絶景ポイント」だと私は思っている。



「〇〇さんおはようございます。」  
「〇〇さん」という大きな声かけからステーション1の一日は始まる。入所者数二十五名の中で、約半数の方々が経管栄養を行っているという事もあるせいか、とにかく元気な職員の声がステーション内で響きあうのだが、それもそのはずである。なんとステーション1の職員平均年齢は二十八歳!! (私がいるにもかかわらず...) まさしく老若男女?! それぞれの個性いりみだれての心強いスタッフ十一名の面々である。

私達は、日々介護がもつ「人と人が関わるという事」の意味を考えながら経験を積み重ねていく。言葉を聞こうとか、単語を書くなどの言葉によるコミュニケーションだけにこだわらずに表情・サインを読みとり、タッチ・などでさすりなどの身体的交流を図り、非言語的コミュニケーションの大切さをステーション1で

は特に感じとる事ができる。それは体温の伝わりを通して、声なき声を伝えていく作業でもある。

ステーション1のチーフとなり、すでに一年六ヶ月が過ぎようとしている。「元気に明るく楽しく」がはからずも私のモットーであるが、これからもこのモットーを忘れずに、熱い心と冷たい頭、そしてなによりもたくましい腕?! のそなわったスタッフと共に、さらに邁進していきたい。

新入職員のあいさつ

ほのほの苑で働いて思う事

看護科 清水伊津子

今年の三月より勤務することになりました。年齢は四十を過ぎているのですが、看護師としては六年目の新米です。それまで主婦、事務員と全く違った環境で働き、十四年を経たふと思いついたように看護の仕事を始めました。老人病院、特別養護老人ホームに働き、私が想像もなかった高齢化、痴呆の重症化、介護という職種が存在等、驚くことばかりでした。今後老いていく自分の未来を見ているようで不安にかられた



ものです。自分の思う施設とは、最後まで社会の一員とし生活できる場であること、医療やリハビリ等、抱えてしまった障害をサポートしてもらえること、あたりまえの生活を保障してくれる場所であってほしいと思います。ほのほの苑にはそれを可能にできる体制が他に比べて整っているとあります。ここで私は初心に戻り、自分の入りたいと思える施設作りに頑張ります。

リハビリ科PT 米川 佳吾

十二年ぶりに、秋田の生活がはじまりました。空、空気はきれいだし渋滞もない。休日は何をしようか悩む日が続いています。

入職したての頃は(二ヶ月前)相手の表情を見る事なく仕事していた気がします。今は利用者、入所者の方が声をかけてくれます。

私の仕事は、九年目になります。色々な出来事がありました。中でもこの仕事をしてよかったと感じる瞬間があります。治療が上手くいった時です。お互いうれしい気持ちになるのです。この成功体験が、お互いのモチベーションを高めてくれます。これが仕事のおもしろ味なのかもしれません。

この様な時間になる為に、がんばって一人でも多くの笑顔を見ていきたいと思えます。

リハビリ科OT 大塚恵理子

はじめまして。三月からほのほの苑に入社した、大塚恵理子です。入社してからの二か月は毎日が失敗・反省の日々です。しかし、新人の私には嬉しいことがあります。それは、入所の方の「最初からできる人はいない、まず自信持ってがんばりなさい」などという教えや、「一緒に働いているスタッフが気遣って『大丈夫』と声をかけてくれたり、いろいろと熱心に指導して下さることです。私はこのような温かい人間環境の中、少しずつ職業人として成長していけたらと思います。

余談となりますが、家の息子(二才)は、顔は女の子ですが、性格はやはり男の子で活発です。最近では、悪いことをして周りの反応をみてニヤツと笑っています。入所の方は子育て・人生の大先輩なのでリハビリで関わりながら、いろいろな話をしたいと思っています。

まだまだ未熟ですが、一生懸命がんばりますのでよろしくお願ひします。

デイケア科 宇佐美綾子

今年の二月から、ほのほの苑デイケアで働かせていただいている宇佐美綾子と申します。働いてから三ヶ月ということで、徐々に毎日の業務にも慣れ、働き始めのぎこちない笑顔や、話し方も消えてきました。デイケアに通所している皆様は、それぞれいろいろな意味で個性があり明るく、笑いの絶えない毎日です。その日の業務をこなすことで精一杯だった頃から比べ、今では通所者とのふれ合いを通し学習することが多く、楽しみながら仕事をさせていただいています。

私は、これといって他人よりずば抜けて出来るという特技もなく、趣味もドライブやスポーツ観戦とありきたりなもので、日々を楽しく平和に過ごしたいと願うマイペースな人間です。まだまだ分からないことも多く、皆様に迷惑をかけると思いますが、失敗しながらも一生懸命頑張りたいと思いますので、宜しくお願ひします。

介護福祉士 鈴木 翔子

今年度から入職しました鈴木翔子と申します。三月に学生を卒業したばかりの新米ですが早くこの職場になじんで、仕事をしたいけるようにこれから頑張っていきたいと思います。

私の特技は高校の時に美術部に所属していたこともあり、物を作ったり、ちよつとした飾りつけをするのが好きなことです。月に一度行われる行事や、入所されている利用者の方々の日常生活にささやかな彩りが添えられるように特技を生かしていければ良いなあ、と思っております。これから何卒よろしくお願ひします。



### 母へ感謝・感謝状をあげたい

施設運営適正化委員会 副会長

(昭和町アミダ堂) 石井 俊英

母イツエは、去る五月十五日早朝、九十歳でその生涯を閉じた。死因は「胆管癌」という私共にはあまり聞き慣れない病名であった。母が四年間過ごした思い出一杯の「ほのぼの苑」に別れを告げ、小玉医院へ入院したのは四月二十八日。桜は花より葉が日立つ頃でした。主治医の院長先生をはじめ、医療スタッフの手厚い治療、看護を受けての十七日間の闘病生活。今思えば本当によく頑張ったものだと思います。たくさんの人からのお見舞いや温かい励ましの言葉をいただきました。この稿をお借りして心よりお礼を申し上げます。

日が経つのは早いもので、母の葬儀が終わり一息ついたと思ったら、「小練忌」、「大練忌」(仏教用語で小練忌は三十五日、大練忌は四十九日の事)と続く。これらの仏事が過ぎた昨今、母への感謝の念が湧いてくる。

母は、誰にでも気軽に話しかけたり、すぐに友達になったりする性格开朗で、他人からものを頼まれると断る

ことを知らない人でした。いわゆる安請け合いをし、自分で処理できなくなる問題を持ち込んで私たち家族を困らせる「トラブルメーカー」よく言えば「無類のお人好し」そんな人でした。しかし、私たち夫婦が共働きをし、三人の子供を育て上げて社会に送り出すことができたこと。また、夫婦共々健康で各々の職場を停年まで勤め上げることができたこと。これらは、何と言っても母の家族に対する優しい支えがあったからに他ならない。大きな感謝状をあげたい。

それにもう一つ「ほのぼの苑」の職員皆様の四年間にわたる母への温かい介護支援があったこと。このことは、我が石井家にとって大変重要で筆舌に尽くし難いものがあります。ここに改めて心より感謝申し上げます。

終わりに、向後とも「ほのぼの苑」の限らない繁栄と施設職員皆様のご健康と幸せを祈念しつつペンを置きます。

平成十五年七月 記

### 平成十五年度「医療法人正和会健康祭り」開催のご案内

正和会本部主任 奈良 真

毎年恒例となりました「医療法人正和会健康祭り」を、今年も開催します。日時は、八月二日(土)午後二時からです。

催し物として、竿灯・健康相談・コンタクトレンズケア用品無料配布・各種出店といったものを予定し、皆様をお待ちいたしております。

また、夜には花火を打ち上げます。健康祭りにおいて花火は毎年打ち上げておりますが、花火にはもともと

「亡くなった方を偲び、慰める」という意味があることを皆様はご存知でしたでしょうか。正和会の打ち上げ花火は、その意味を重んじて毎年打ち上げております。職員一同、ご来場いただいた方には精一杯のおもてなしができるようがんばりますので、皆様お誘いあわせの上、ぜひご来場ください。お待ちしております。



### ほのぼの苑 各種委員会のご紹介

施設長を委員長として職場の代表が委員となり、一週から一ヶ月の割合で開催しています。

- 業務委員会
- 業務検討委員会
- 感染症委員会
- 身体拘束検討委員会
- 医療事故検討委員会
- 教育研修委員会
- 適正化委員会
- 編集委員会

### 編集後記

「ほのぼの苑は毎日がお祭りだ。」当苑の掲示板で目にした方もいらっしゃるかと思いますが、そんな生活風景をこの紙面で多くの方々に伝えたい思いで第一号の発行を進めてきました。苑全体で共に楽しみ、笑い、涙している姿をよりリアルに感じとっていただけるよう次号へと努力し、ほのぼの苑を知っていただきたいと思います。

編集委員 亀田 剛章、加藤 穂樹

鈴木 聖子、菅原 恵美

細谷 一彦、長澤久美子